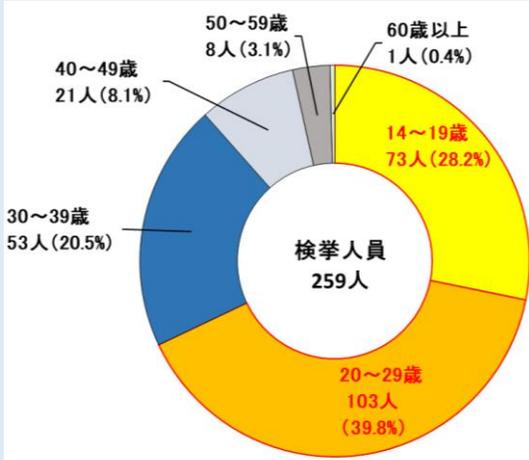


サイバー犯罪（不正アクセス）行為者の実態

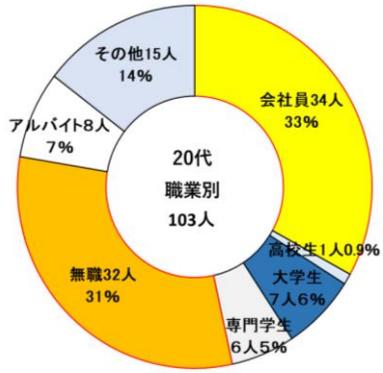
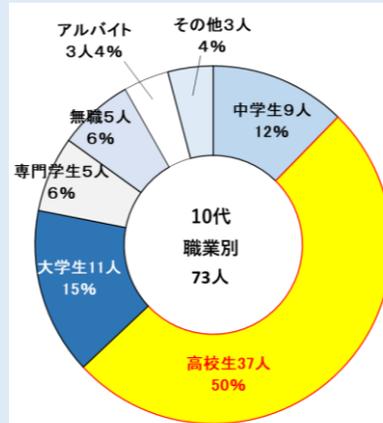
行為者の実態

- 令和5年における不正アクセス禁止法違反事件の行為者の年齢構成をみると、全体のうち10代～20代が占める割合が高く68%を占める。
 - 行為者の職業別では、10代では高校生、20代では会社員・無職が多く見られる。
- 10代～20代の若者に対するネットリテラシー教養を継続的に実施する必要がある。
小・中学生時など、早い段階から教育を行うことが重要。

不正アクセス禁止法違反被疑者の年齢構成



同法違反被疑者の10代～20代における職業別



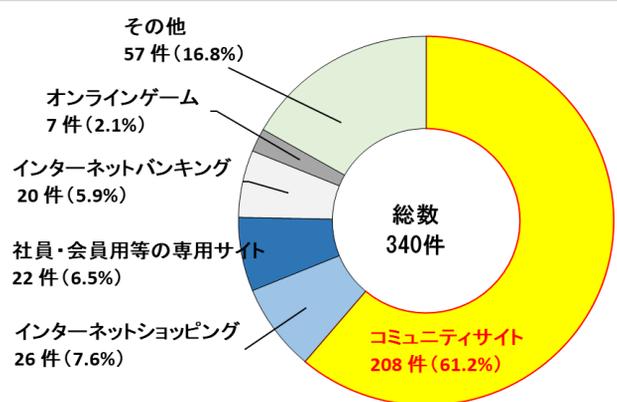
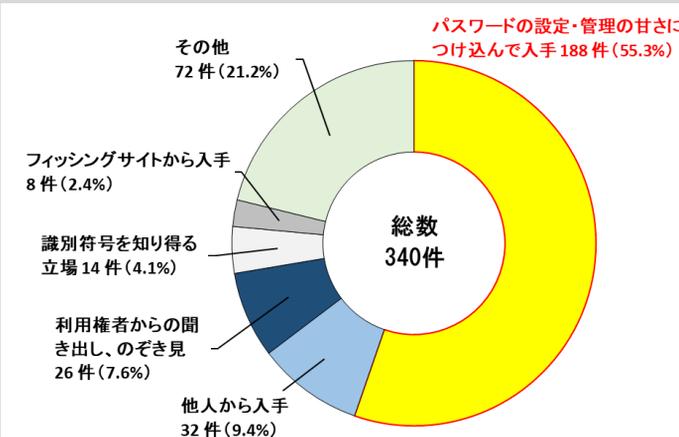
【参照元】不正アクセス行為の発生状況及びアクセス制御機能に関する技術の研究開発の状況をもとに作成

犯行手口の実態

- 10代～20代における不正アクセスの手口別検挙をみると、「利用者のパスワード設定、管理の甘さにつけこんで」が多く55%を占める。
- 10代～20代における不正に利用されたサービス別の検挙をみると、「コミュニティサイト（SNS）」が多く60%を超える。

→ SNSを利用する際には、簡単なパスワードを設定したり、友人や交際相手を含め、他人にパスワードを教えないう指導することが必要。

不正アクセス禁止法違反被疑者（10～20代）における犯行手口及び犯行サービス



もしも、被害に遭ってしまったら警察に通報・相談を！
 最寄りの警察署又はサイバー犯罪相談窓口 → <https://www.npa.go.jp/bureau/cyber/soudan.html>